

研修機関	医療法人社団勝木会 やわたメディカルセンター
研修期間	平成17年8月1日～9月30日
所属・氏名	能美市立浜小学校 島崎 透

I 研修目的

- ・学校現場を離れ、多くの人とのかかわりの中で視野を広げ、人間性や社会性を磨き、自分自身をじっくり見つめ直す機会とする。
- ・常に患者様や利用されるお客様の立場に立ってサービスを提供しようとする企業としての姿勢に触れ、公教育にどう生かしていくべきかを考える。
- ・医療、福祉の現場をしっかりと見つめ、人の心に内面から寄り添える教員としての意識向上を図る。

II 研修内容

1 オリエンテーション【1日目】

勝木グループの基本理念・姿勢・方針、接遇の基本、社員教育、各施設の見学等

2 図書室・薬剤課【第1週～第2週】

①図書室（午前）

書籍（医学雑誌等）のデータ入力、廃棄書籍の抽出整理作業

②薬剤課（午後）

ア オリエンテーション

業務内容について、コンピュータによるオーダーリングシステム、安全管理等

イ 外来・入院調剤業務

プリントアウトされた処方箋・薬袋・説明書の番号仕分け、薬剤の取り出し、軟膏の調合、分包機への薬剤補充等

ウ 院内調剤業務

手術検体保存用ホルマリン溶液の調合等

エ 受付業務

患者様の対応、薬の受け渡し、服薬指導見学

3 介護支援補助【第3週～第4週】

①オリエンテーション

施設内の見学、高齢者福祉や介護保険等について

②通所リハビリテーション・デイケアサービス

リフトバス・ワゴンによる送迎、利用者とのコミュニケーション（会話・作業のお手伝い等）、体操やレクリエーションの補助、リハビリ（歩行訓練等）の補助、入浴（特浴）介助、食事補助（配膳・評価等）、菜園づくり、誕生日プレゼント（写真入り名札）づくり など

4 サービス本部・図書室【第5週前半】

①サービス本部

図書室で、書籍のデータ入力、廃棄書籍の抽出整理作業

②総合窓口での受付業務

診察カードによる再来受付補助、バスの時間案内、さまざまな問い合わせに対応

5 北陸体力科学研究所（ダイナミック）【第5週後半～第8週】

①オリエンテーション

北体研の概要と各種業務について

②健康スポーツ課

ア メディカルチェック体験

身体計測、血圧、採血、心電図、検尿、体力測定など

イ 会員サービス課（ダイナミック）

・清掃

玄関前の掃き掃除、運動器具のふき掃除等

・受付業務

来館されたお客様の対応、接客研修

・アリーナ業務

ストレッチや各種体操・講座の体験と補助、ジュニアトランポリン教室の補助、会員様とのコミュニケーション など

・文化系クラブ業務（やわた倶楽部）

絵画教室、パソコン教室補助 など

ウ 各種セミナーでの補助

・大学集中講義（川崎医療福祉大学の受け入れ）

講義補助、ストレッチや各種体操実技参加 など

・糖尿病境界型セミナー（健保連の事業）

受付・案内、体力測定（上体おこし等担当）補助、ヘルシー調理・グランドゴルフ参加 など

・体力測定・健康づくり教室など（委託による出張）

白山市体力測定（握力等担当）、金沢市壮年期健康づくり教室、小松高校メンタルトレーニング、武生市元気アップ貯筋教室補助 など

エ その他

勉強会（昼休みを利用して週1回行っているもの）、館外清掃（草むしり）

参加

③検診センター

ア 健康サポート塾（夜間）補助

受付、アンケート記入補助 など

イ DM準備

住所録整理、印刷 など

ウ 各種データ保管室の整理

検診結果票の整理（年度別・企業別）、X線フィルムの倉庫移転 など

6 看護部・用度課・サービス本部【第9週】

①看護部

ア オリエンテーション

業務について、病棟の見学、医師による回診の見学等

イ 看護助手体験

病室ベッドのシーツ交換（ベッドメイク）食事の準備、車椅子の整備（空気れ）、足浴介助、トイレ介助、レクレーションの準備と介助、備品チェック（椅子・車椅子） など

ウ リハビリテーションの見学

・理学療法士による理学療法の見学

運動療法や日常生活動作訓練の見学

・作業療法士による作業療法の見学

身辺動作や家事動作を目指す訓練の見学

・カンファレンス見学

病状やリハビリ計画について

エ 手術室の見学と補助

・手術の準備（物品の定数チェックと補充、手術毎のリネンづくり）

・器具のラッピング体験

②用度課

- ア オリエンテーション…業務について
- イ 必要請求物品の払い出し、在庫量のチェック、請求カードの回収
- ウ 各階病棟の医療消耗品カートの交換と補充
- エ 納品書の整理

③サービス本部

- ア 総合窓口での受付業務
- イ 出張復命書・新人アンケート等の整理
- ウ 今回の研修のまとめ（懇談）

III 研修成果

「将来を見据えて」

病院は病気になってから行く所という認識がまだ強かった20年前、研修先企業は既にスポーツ部門の併設に踏み切っている。高齢化社会の到来による病院患者の増加を確信し、健康な高齢者づくりを目指したのである。自分は10年・20年後の健全な若者像を明確化しながら子ども達の指導に当たってきたかどうか…。また、スポーツ部門の利用者方のようにはっきりとした目的意識を、学校に通う子ども達に持たせることができているかどうか…。自分の、教育そのものに対する姿勢を大いに反省させられた。

研修先企業はまた、病気回復後のリハビリテーション部門を併設している。卒業後のサポートは十分だろうか…。進学先との連携について、学校の体制を考えさせられた。小学校が中学校や保育所・児童館等とより一層の連携を図り、研修先企業のように地域教育を担う一大グループの一員として機能していけるような存在でありたいと思った。

「健康増進の教育を」

派遣研修先で、健康増進が人間の生涯に関わる課題であり、社会の重大関心事になっていることを実感できた。近年、食育という言葉を目にするようになってきたが、古くから唱えられてきた知育・徳育・体育の3育に加える第4の育に位置づけられるべきだという重みを感じさせられた。単に空腹を満たすための給食ではなく、食育を実行していく場面としての学校給食を心がけていきたい。

私事ながら、研修の一環としての健康診断体験で自分の骨強度が高齢者並みと知って愕然とした。十代での運動不足が原因の一つではないかという。運動嫌いな子どもを見るにつけ、将来を懸念せざるを得ない。社会体育において専門スポーツの低年齢化が進んでいる今日、小学校体育においては、技術的に取り残されて運動嫌いに陥る子供を出さないために、誰もが楽しめる授業づくりを工夫していくことの大切さを改めて感じている。

「バランスのとれた支援を」

派遣研修先で、入院患者や通所会員の方々が身の回りのことを自分でできない場面に数多く遭遇した。できなくて当たり前の世界であり、その都度介助が必要であることもまた当然であったが、先回りして手を出してたしなめられた場合もあった。自分は子ども達に対してできて当たり前という姿勢で接してこなかっただろうか…。できることにまで手出ししてこなかっただろうか…。教育活動におけるきめ細かな支援の必要とバランスについて、思い起こさせられた。

IV 今後の課題

今回の研修で得たことを、学校現場で今後どう生かしていくかが最大の課題である。自己の反省に基づき単独で実行に移せる事については早速実践にかかっているが、学校全体で取り組まなければ効果を期待できなかったり、全教職員の共通理解を得なければ齟齬を来す場合もある。学校現場に復帰して、繁忙に追われる毎日ではあるが、ぜひ研修報告の機会を設定してもらいたいと思っている。研修先で見聞した職員同士の終日挨拶・給食の評価など、取り入れてみたい事はいろいろある。

また、職場独自の新しい取り組みを皆で工夫していきたいと思っている。